社会福祉法人 SKY かわさき　令和 5 年度事業報告

１，法人の動き

令和 5 年度は社会福祉法人 SKY かわさき骨格作りとして作成した中期 3 年計画の中間年。令和 2 年法人設立と期を一にして猛威を振るってきた新型コロナウイルスが、令和 5 年 5 月に 5 類感染症に引き下げられ、事業運営において日常を取り戻すことに努めた 1 年だった。全事業所で対面による地域ネットワーク会議を再開し、地域ニーズの確認に努める中、10 月には WHO 精神保健福祉法制度・政策ユニット責任者がジュネーブより SKY かわさきへ視察にお越しになり、があでん・ららららの地域ネットワーク会議に参加された。また、昨年の特別委員会、地域活動支援センターあり方検討会のまとめを受け、障害理解と地域交流を目的に、7 月 28 日から 8 月 2 日まで多摩市民ギャラリーにて法人作品展「イカス！スカイ展」を開催し、334 名の来場者を得た。令和 5 年度特別委員会としては移動支援事業立ち上げ検討委員会を開催し、次年度半ばまでには事業申請する方向を確認した。同じく特別委員会として就労継続支援 B 型事業所交通費問題検討会を開催し、川崎市と課題について協議した結果、「事業者が交通費を利用者に支払うことのみをもって利益供与とするには当たらない」との回答を得ることができた。令和 4 年 2 月に報道された東京・滝山病院における虐待事件を受け、同年、障害福祉事業所において委員会設置が義務化された身体拘束や虐待防止の構造的課題を職員一人一人が深く理解するために、令和 5 年 7 月 1 日に神奈川近代文学館にて行われたシンポジウムと、同年 12 月 16 日に神奈川県立保健福祉大学にて行われた病院・地域精神医学会に後援団体として協力し、職員派遣した。

２，法人：重点項目の取り組み

（１）　透明性、公益性の確保と地域ニーズの確認

① ホームページで情報開示（収支状況、苦情・事故報告）を行った他、随時のお知らせ欄の充実を図った。年に 2 回の広報誌で本部の動きと各所の活動内容、利用者の声を届けた。

② 対面による事業所ネットワーク会議を全所で実施し、地域とのつながりを深め、地域ニーズを確認した。

（２）　体制整備と経営基盤の安定

① 就労継続支援 B 型事業所があでん・ららららの大規模なリフォームを行い、新規利用者の受け入れに努めた。

② 専門職非常勤を増員し、本部機能を強化した。各事業所職員の過不足を鑑み、年間を通じての応援体制づくりに取り組んだ。

③ 会計クラウドを活用し、所長会議で月次決算を確認した。

（３）　人材育成と世代交代

① 所長会から主任会へ各種委員会の決裁に係る権限移譲をすすめ、主任が委員長を担う形が定着したことで、委員会活動が活性化した。

② 昨年に引き続き、関係者に向けてメンバーと職員がともに行う業務報告会が実施され、各人の内発的動機付けの維持と人材育成に寄与した。

３，会議報告

１）評議員会

定時評議員会として６月に開催したほか、必要な場合に開催した。令和５年度は、10 月と３月に開催した。

（1）評議員構成（定款：８名）

岡部健、坂本勉、十文字陽一、池原毅和、田草川武、武田龍太郎、谷みどり、築根俊明

（2）評議員会の開催状況

第１回評議員会

日時：令和５年６月 23 日 18：00～19：15

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員７名、理事６名、監事１名、事務局１名

審議事項：令和４年度事業報告、令和４年度決算報告

報告事項：令和６年度評議員改選に向けて

第２回評議員会

日時：令和５年 10 月 27 日 18：00～19：40

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員７名、理事６名、監事２名、事務局１名

報告事項：ＷＨＯスタディツアー報告、特別委員経過報告

第３回評議員会

日時：令和６年３月 22 日 18：00～19：20

開催場所：地域活動支援センターきたのば

出席者：評議員６名、理事６名、監事２名、事務局１名

報告事項：令和６年度事業計画、令和６年度予算

２）理事会

当法人の業務執行の決定、理事の職務執行の監督を行った。６月、３月ほか必要な場合に開催した。令和５年度は計４回開催した。役員構成と開催状況は下記の通り。

（1）役員構成（定款：理事６名、監事２名）

理事：三橋良子、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、金森孝之

監事：竹下とし子、三村健

（2）理事会の開催状況

第１回理事会

日時：令和５年６月６日 18：00～19：20

開催場所：地域活動支援センターきたのば
出席者：理事６名、監事２名、事務局１名
審議事項：令和４年度事業報告(案)について、令和４年度決算(案)について・監事監査報告、役員賠償保険の加入について、があでん・ららら修繕　業者選定について、令和５年度第１次補正予算(案)について、経理規程の改正（案）について、定時評議員会の招集について

第２回理事会
日時：令和５年７月 11 日 15：00～15：30
開催場所：地域活動支援センター紙ひこうき
出席者：理事６名、監事２名、事務局２名
報告事項：理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
審議事項：があでん・ららら修繕　業者選定について、役員賠償保険の加入について（再検討）

第３回理事会
日時：令和５年 10 月 10 日 18：00-19：30
開催場所：地域活動支援センターきたのば
出席者：理事６名、監事２名、事務局１名
報告事項：理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
審議事項：人事　役職選任及び解任について、役員報酬について、労務　給与規程の改定、物価高騰対応助成金の使途について、評議委員会の招集について
その他：役員改選について

第４回理事会
日時：令和６年３月５日 18：00-19：30
開催場所：地域活動支援センターきたのば
出席者：理事６名、監事２名、事務局１名
報告事項：理事長および業務執行理事の職務執行状況の報告
審議事項：役職人事について、給与規程・福利厚生及び慶弔見舞金規程・就業規則の改定について、定款細則別表２及び別表３について、令和５年度補正予算（案）について、令和６年度事業計画（案）について、令和６年度予算（案）について、評議員選任・解任委員の欠員選任について、評議員会の招集について

３）本部会議
事業、人事、労務、総務にかかわる事項を検討・審議した。
構成員：三橋良子、青野眞美子、嘉門琢美、大友わかさ
開催場所：本部事務所、紙ひこうき
開催回数：隔週１回　合計 23 回

４）所長会

各事業所およびその他の事業について協議し、理事会議事の提案事項を起案。「安全管理委員会」、「苦情解決委員会」、「情報管理委員会」を同時開催。

構成員：三橋良子、青野眞美子、大友わかさ、嘉門琢美、篠原宏江、
金森孝之、鶴田裕、伊藤美津子

開催場所：紙ひこうき

開催回数：毎月１回　合計 12 回

（1）安全管理委員会

各事業所における事故報告･ヒヤリハット等の報告事項を共有し再発防止について協議した。所長会と同日開催。

（2）苦情解決委員会

各事業所における苦情等の報告事項を共有し再発防止について協議した。所長会と同日開催。

（3）情報管理委員会

法人内のデータ一元化にかかる事項を共有し、課題と今後の方針について検討した。所長会と同日開催。

（４）　特別委員会

「就労Ｂ型通所者交通費検討委員会」を構成し、川崎市の集団指導で指摘のあった就労継続支援Ｂ型事業所からの交通費支給が利益供与にあたるという点に対して、市議会議員の協力も仰ぎ、担当課と協議をおこなった。結果「事業者が交通費を利用者に支払うことのみをもっては利益供与とするにはあたらない」という回答を得ることができ、集団指導の内容も訂正となった。

構成員：金森孝之、三橋良子、青野眞美子、嘉門琢美、大友わかさ

開催場所：紙ひこうき、はっぴわーく

開催回数：計５回

「移動支援事業立ち上げ検討委員会」を構成し、担当課と協議しながら事業指定の要件や人員基準、実施場所など検討を行った結果、令和 6 年度内に北部地域生活支援センターにて事業申請を行うことになった。

構成員：篠原宏江、鶴田裕、三橋良子、青野眞美子、嘉門琢美、大友わかさ

開催場所：紙ひこうき

開催回数：計８回

５）主任会

各事業所の活動報告を共有し、連携を図る。広報、普及啓発、研修、防災委員会からの報告事項を協議した。

「感染対策検討委員会」「身体拘束等の適正化委員会」「虐待防止委員会」を同日開催。

構成員：田中敦子、吉岡育美、石井美樹、今井歩美、藤井恵美子、
鹿野絵莉子、早坂勇気

開催回数： 毎月 1 回　合計 12 回

（1）感染対策検討委員会

今年度は、令和 5 年度末までに設置が義務化された事項である、委員会の開催･指針及び BCP の策定･研修の実施･発生した場合の訓練をすべて実施できた。BCP については、それぞれの事業所に沿うよう事業所ごとに策定した。この他、令和 5 年 5 月に新型コロナが 5 類へ移行したことを受け、法人の対応を検討した。感染症（コロナ）発生関連記録については、注意喚起に役立てるため継続した。

構成員：7 名

開催回数：計 12 回（主任会同日開催）

（2）身体拘束等の適正化委員会

今年度は、虐待防止委員会と一体的に活動を行い、毎月の件数報告、オンライン動画を用いた義務研修の実施及び滝山病院事件シンポジウム運営補助に取り組んだ。また、この他に身体拘束等の適正化委員会の名称変更やそれに伴う指針の改定を行った

構成員：7 名

開催回数：計 12 回（主任会同日開催）

（3）虐待防止委員会

今年度は、身体拘束等の適正化委員会と一体的に活動を行い、毎月の件数報告、オンライン動画を用いた義務研修の実施及び滝山病院事件シンポジウム運営補助に取り組んだ。

構成員：7 名

開催回数：計 12 回（主任会同日開催）

（4）広報委員会

SKY かわさき通信を年 2 回（49 号、50 号）発行。多面的な内容で充実した話題を掲載した事により反響の声もあり、広報委員会活動としての意義を感じた。また、法人パンフ新調についても同印刷会社にて依頼を進めていく方向となった。法人ホームページについては閲覧者が見やすいよう過去のお知らせ等の削除、整理の呼び掛けを行った。

構成員：5 名

開催回数：計 7 回

（5）普及啓発委員会

「地域とのつながりを深め、地域ニーズを確認していくため、令和 6 年度法人主催のイベント開催に向けた企画・検討をすすめる。」という計画に基づき以下の活動を行った。

①講演会の開催：カリタス女子中学高等学校　奉仕活動グループ「アンジュラスの会」

日時：令和 5 年 12 月 7 日 16:15～17:30

参加者：45 名(生徒、教員)

内容：部活動の中で、映画「不安の正体」上映、説明と質疑応答、アンケートの実施。

②令和 6 年度上半期開催のイベントの企画・検討

日時:令和 6 年 6 月 24 日午後

場所:川崎市アートセンター　アルテリオ映像館

内容:映画「破片のきらめき～心の杖として鏡として～」上映、トークセッション、平川病院造形教室の作品展

構成員:6 名

開催回数:計 8 回

（6）研修委員会

「日々の支援に生かせる研修会の実施。他機関、地域関係者の方へ自分たちの活動を知ってもらえる業務報告会の実施」をテーマに取り組んだ。

11 月には、職員の関心の高かった「トラウマ・インフォームドケア」をテーマに川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター石井美緒医師を講師に迎え、研修会「トラウマ・インフォームドケアを学ぶ～生きづらさを理解する～」を実施した。トラウマ状態にある方への実践的な対応を学べたうえ、支援者自身のセルフケア、チーム支援の大切さを改めて理解したとの声がきかれた他、行政職員とのグループワークを設けたことで視野が広がったとの声もあった。

2 月には「事業や活動、支援に対するここが熱い」をテーマに業務報告会を実施した。昨年以上に多くの地域関係者の方にご参加いただき、総勢 83 名もの方にご来場いただいた。職員の研鑽がひとつの目的であるが、発表した 4 事業所全てから利用者の方も発表に参加し、利用者の想いや声を直接伝えられる機会ともなった。

構成員：5 名

開催回数：計 9 回

（7）防災委員会

防災マニュアルの職員参集体制に災害対策本部を追加し、大幅な見直しを行った。防災訓練では今年度もグループホームの参集拠点ごとに集まり、入居者と避難所まで歩いて避難経路の確認や消火器の設置場所確認、通報訓練を行った。

ＢＣＰ（自然災害時の業務継続計画）については、作成のための特別委員会を開き、地震・風水害それぞれ作成し、事業所ごとに設置した。

構成員：5 名

開催回数：計 15 回

４，事業別報告

１）障害福祉サービス事業

(1) 共同生活援助事業所　ホーム SKY

場所	あんじょうやりや、きらくや、すみれ、すみれⅡ（多摩区登戸） みかんハウス、ふらっと（多摩区栗谷）カンタービレ（麻生区百合丘）
対象者	定員　39　名（2 月まで）　40 名（3 月～）
新規利用者	4 名（退院 2 名、他施設 1 名、家族 1 名）
退所者	4 名（自立 1 名、他施設 1 名、入院 2 名）
利用実績	実数　42 名/年（1 年間の利用人数）
開所日数	365 日
職員数	常勤専任 5 名、常勤兼務 4 名、非常勤 17 名

事業報告

・入退居支援　　例年より入退去の少ない年であったが、自立での卒業の方は1名、アイビーに繋げて支援を継続。5 年度中の自立目標の入居者が、新しい住まいが見つからず来年度への支援継続となり、卒業後の住まいの確保の難しさを改めて痛感。関係機関や地域を含めた課題として今後も検討したい。

・高齢入居者への対応　3 月 31 日現在、65 歳以上の入居者 8 名（内 70 歳以上 6 名）。5 年度中の高齢者の転倒、骨折 4 件。高齢のため持病の悪化や病気の発症、精神的課題への対応のため、個別相談だけでなく、受診同行、買い物支援（同行や注文相談）家事や身の回りの支援が増大している。高齢者施設への移行は経済的にも難しい上、家族からの支援や後見人を求められる場合もあって課題が多く、解決に繋がらない現状である。

・健康についての支援　　コロナ以降の体調管理支援を継続しているが、入退院の多い 1 年でもあり入退院支援を行った。（入院期間　延べ 3 か月以上 4 名 3 ヶ月未満 2 名）精神科入院についてはご本人との話し合いや、入院同意に時間をかけて取り組んだ。

＜活動内容＞

・支援計画作成　　面談、関係機関やご家族との調整、ケア会議

・日常の生活支援　原則週 1～2 回の定期訪問支援（家事支援、部屋の管理等）相談支援、同行、通所支援・服薬管理支援。週 5 回の夕食提供、レクリエーションや交流企画、健康チェックの確認。看護師による体調確認

・自立生活移行支援　卒業に向けてのカンファレンス、関係機関との調整　部屋探し卒業グループワーク、引っ越しや手続きの支援他

・入居支援（入居時面談、カンファレンス、関係機関との連携、手続き調整、引っ越し支援、必要物品購入等新生活の相談等

＜地域との連携＞　　・障施協　グループホーム部会の出席

・川崎市地域自立支援協議会出席　　・多摩区麻生区自立支援協議会出席

・地域ネットワーク会議の実施　　・各ユニットの町内会への参加

(2) 自立生活援助事業所　アイビー

場所	アイビー本部（共同生活援助事業所すみれ内　多摩区登戸）
対象者	利用者　7 名
新規利用者	1 名
退所者	4 名
利用実績	実数　173 名/年（1 年間の延べ利用人数）
開所日数	173 日（別途夕食サービス週 2 日×6 名、支援計画面談等あり）
職員数	常勤兼務 4 名、　非常勤兼務 1 名

事業報告

令和 4 年 1 月より開始され、2 年がたった。ホームから自立生活へ移行した方のアフターケアを目的とし事業を行ってきた。自立生活への不安を感じる方も、アイビーの訪問や同行支援、電話での連絡相談、夕食サービスを利用し、ゆっくり自立への自信を得て、地域生活を送っていけるよう、利用者、関係者と話し合いながら取り組んでいる。今年度の訪問は 156 件、同行は 38 件、夜間の電話対応（22 時以降）は 9 件であった。自立生活援助を 2 年利用した方が 3 名、1 年利用した方 1 名が支援終了となった。2 年間の中で、地域での生活に慣れ、日中活動先とつながり、アイビー以外のアウトリーチ支援とのつながりができている。地域生活を継続するために社会資源とつながりをつくっていくことが、支援の重要なポイントであると考える。一方で 3 年目の利用となる方もいる。サービス調整会議で承認を受け、継続することとなった。利用者のペースを大切にしながら、相談できること、誰かとつながることを意識して支援を行う必要があると考える。2 年 3 か月の実績を振り返り新たな課題を当事者、関係者で確認した。

＜活動内容＞

・原則月 2 回、ご本人の自宅への訪問と、利用者の希望に応じて随時の訪問
・買い物、受診、手続き等の同行支援
・24 時間連絡を受けることが可能な体制作り（夜間、休日は緊急携帯対応）
・法人独自のサービスとして夕食サービス（週 1～2 回）の実施。
・3 か月ごとの支援計画、モニタリング

＜地域との連携＞

・各利用者の相談支援事業所、訪問看護事業所、関係機関との連携
・各不動産会社との連携

(3) 就労継続支援Ｂ型事業所　はっぴわーく

場所	多摩区登戸 2959
対象者	利用者　38 名
新規利用者	9 名
退所者	5 名（在宅 3 名、他資源への移行 1 名、死去 1 名）
利用実績	実数　3,764 名/年　　平均利用者数　15.82 名/日
開所日数	257 日（内、平日 238 日、休日 19 日）
職員数	常勤専任 4 名、非常勤 3 名
その他	工賃時給 140 円～680 円（他、上期下期手当あり） 工賃支払総額　4,611,663 円/年

事業報告

令和 5 年度ははっぴわーくにとって大きな変化が 2 点あった。1 点はピアスタッフの雇用。令和 4 年度まで利用者として登録されていた方を非常勤職員として採用し、この 1 年、立場と役割が変わっても良き仲間として一緒に働いて頂くことが出来た。また、新規受入れでは軽度の知的障がいの方の受入れを開始し、作業や環境がマッチする方が複数いらっしゃることを経験とともに学んだ。開所から約 15 年、様々な立場の方がそれぞれの違いを尊重し合いながら力を発揮できる場へ、小さな一歩を踏み出せたのではないかと感じている。

その他、実施、達成した主な事柄は以下の通り。

【ジャム部門】梨ジャムキャンペーン自主運営に向けた取り組み／梨仕入先増／シロップ製品化　【内職部門】ジャムとのバランスを意識した内職受注／取引先増と安定による工賃アップ／目標金額達成　【清掃部門】ゆうえんハイツ清掃開始／清掃の質向上の為のビルメンテナンス企業を講師に招いた研修実施

＜活動内容＞

・登戸作業部門：ジャム製造・販売、軽作業、マンション清掃、ポスティング
・北リハ清掃部門：北部リハビリテーションセンター清掃
・その他：ミーティング、作業講座、レクリエーション、日帰り旅行等

＜地域との連携および販売協力等＞

・イベント販売：登戸・多摩川ﾏﾙｼｪ／ﾊﾟｻｰｼﾞｭ・たま（6 回）／ﾌﾟﾗｻﾞﾏﾙｼｪ（市民ﾌﾟﾗｻﾞ）／花と緑の市民ﾌｪｱ／GINZA 市／まじわーる祭り／民家園通り夏まつり／登戸ﾏﾙｼｪ（2 回）／あゆ祭り／登戸ﾃﾞﾎﾟｰ出張販売／武田病院作品展／なごみ保育園バザー／緑化フェスプレイベント／多摩ふれあい祭り／北ﾘﾊﾌｪｽﾀ／さくらまつり／きたのば合同販売会／紙ひこうき夏祭り／SORA 市
・委託注文販売（敬称略・団体のみ）：はぐるまの会／木下農園／ｲｰｽﾄﾌｧｰﾑ／ﾄﾞｯﾃﾃﾞ柿の木台／café ﾂﾑｷﾞ／2416MARKET／灰吹屋／美遊 JAPAN／HOTEL-ARU-KSP／葉月社労士事務所／紀伊国屋ｱﾝﾄﾚ武蔵小杉店／北部ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ／ＪＲ東日本ﾘﾄﾙﾏｰﾒｲﾄﾞ／ｶﾘﾀｽ女子中学高等学校／ｿｰｼｬﾙﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾝﾀｰ／ﾌﾟﾛﾊﾞｽｸﾗﾌﾞ／があでん・ららら

(4) 就労継続支援Ｂ型事業所　があでん・ららら

場所	麻生区下麻生 3-32-5
対象者	利用者　36 名
新規利用者	4 名
退所者	4 名（一般就労 3 名、他資源利用 1 名）
利用実績	実数　4,011 名/年 平均利用者数　16.8 名/日
開所日数	255 日（内、平日 239 日　休日 16 日）
職員数	常勤専任 3 名、常勤兼務 0 名、非常勤 7 名
その他	工賃時給：150～500 円 工賃支払総額　2,395,005 円/年

事業報告

5 年ぶりに行った地域ネットワーク会議に WHO のミシェル・ファンク氏をお招きし、利用者による活動報告や体験談を通じて、地域の皆様との交流を深めることができた。昨年から今年にかけて 3 名が一般就労に進んだこともあり、利用者より希望のあった「就労」をテーマとした学習会に卒業生や就労援助センター職員を講師にお呼びして話を聞くことで、就労意欲の高まりや具体的なイメージ作りに繋がった。また、新規利用者受け入れ拡大を目指し大規模なリフォームをおこなった。生産面に関しては、地域イベントが本格的に戻って来る中で、新たな繋がりと販売機会に恵まれた一年となったが、収穫量と生産量の安定は継続した課題となる。

＜活動内容＞

・園芸、喫茶、焼菓子、ハーブティー、クラフト、販売、MT、学習会（健康学習会、就労 MT、販売練習会、消費者教育講座、活動報告、防災訓練など）

＜地域との連携＞（敬称・法人格略、団体のみ、50 音順）

ＡＳＡＯ健康井戸端会議、麻生区社会福祉協議会、麻生区自主製品販売連絡協議会、生田病院、おやじ考、川崎市都市農業振興センター、カリタス女子中学高等学校、里山フォーラム、下麻生自治会、世界保健機構、東柿生小学校、緑化フェア推進室など

＜販売協力＞（敬称・法人格略、団体のみ、50 音順）

麻生区危機管理室、麻生区地域ケア推進室、麻生区地域支援課、麻生区社会福祉協議会、麻生区街づくり局、麻生支援学校、あさおのお店、麻生老人福祉センター、イーストファーム、伊藤タクシー、おとぽこ音楽企画、柿の実幼稚園、CAFEPOP！、川崎市アートセンター、川崎市障害者社会参加就労支援課、川崎田園都市病院、カリタス女子中学高等学校、CANDYACTION、渋谷教会、社会空間研究所、SlowFarm、セレサモス麻生・宮前、武田病院、ドリーム、熱源、はなまる塾、東柿生郵便局、ぶらりば・りあん、ふるさと納税返礼品、Vege&ArtFes、美遊ＪＡＰＡＮ、百合丘パプテスト教会、渡辺クリニックなど

２）相談支援事業

(1) 地域相談支援センター　ひまわり

場所	麻生区百合丘 1-20-7　白井ビル 2 階
対象者	利用者　130 名
新規利用者	14 名
退所者	7 名（他区の GH へ入居 4 名、他区への転居 1 名、介護保険への移行 2 名）
利用実績	実数　1,841 件/年 平均利用者数　8 名/日
開所日数	244 日
職員数	常勤専任 3 名
その他	一般相談　130 名 計画作成　10 名

事業報告

令和 5 年度は、生活保護課、児童相談所、市のひきこもり相談、社協等から、区が関わっていないケースの支援依頼や、就労移行支援事業所から、生活課題のある方の終了後の支援についての相談が増加、そのため幅広い分野の制度や社会資源等に関する知識、関係機関との協働が重要だと感じる 1 年となった。また、重度の障害があるため日中も支援が必要な方を対象とした、日中サービス支援型 GH へつなぐ機会が増えたことで、市内他区だけでなく、市外の事業所とも関わりを持つことが多くなり、広域的な支援の必要性を実感した。

＜活動内容＞

・障害種別や年齢等を問わない総合相談の実施、福祉サービスの利用支援
・日頃の個別支援や、会議等を通じた地域の関係者や関係機関とのネットワークの構築
・災害時個別支援計画の作成および、日ごろからの防災への働きかけ
・ゆりあすとの共催で、地域ネットワーク会議を開催し、居宅介護サービス事業所との相互理解に向け、意見交換をした
・区地域自立支援協議会企画運営会議、協議会ワーキング、サービス調整会議、相談支援事業所連絡会、定例会、GSV,相談支援調整会議への参加
・権利擁護ために必要な支援として、成年後見制度利用支援、虐待コアメンバー会議への参加

＜地域との連携＞

・ASAO 健康井戸端会議への参加
・北部メンタルヘルスネットワーク会議への参加
・麻生区高齢者支援カンファレンスへ包括と参加し、報告
・今年度も、担当地区の地域情報交換会に参加し、民生委員、自治会長との交流機会を持った（1 月、3 月）

(2) 相談支援事業所　かみひこうき

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	25 名
新規利用者	3 名
退所者	2 名（就労 1 名、他所移行 1 名）
利用実績	328 件（下記活動報告参照）
開所日数	242 日
職員数	常勤兼務 3 名（紙ひこうき兼務）
その他	計画ならびにモニタリング作成　55 件

事業報告

常勤職員 3 名がグループホームや自立生活援助事業所、就労継続支援 B 型事業所、居宅介護等を利用している方たちの計画相談支援をおこなった。

＜活動報告＞

電話相談 59 件、来所相談 47 件、訪問 76 件、同行支援 4 件

個別支援会議 17 件、関係機関連携 124 件、手紙等 1 件

＜地域との連携＞

・北部基幹相談支援センターとの情報交換会

・相談支援事業所連絡会

・川崎市地域自立支援協議会全体会議出席

３）地域生活支援事業

(1) 地域活動支援センター　きたのば

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	利用者 31 名
新規利用者	7 名
退所者	3 名（在宅 1 名、就労 1 名、他資源移行 1 名）
利用実績	実数　1,880 名/年 平均利用者数　7.8 名/日
開所日数	240 日
職員数	常勤専任 1 名、常勤兼務 1 名、専門職非常勤 1 名、非常勤 2 名
その他	工賃時給：100 円、工賃支払総額 587,724 円/年（手当あり） 実習生受け入れ 1 名

事業報告

令和 5 年度の重点目標は 3 点。①新規の見学や体験利用は、日程など希望に沿えるよう配慮した。関係機関と法人内ホームからの問合せが多く、7 名の方が登録に至った。またイラスト部を立ち上げ、所内の装飾やシールなどの製品作りにも取り組んだ。作業だけでなく、外出レクや会食、外部講師を招いた音楽ワークショップを行いながら相互理解を深めた。②地域交流においては、近隣のイベント販売に声をかけていただく機会が増え積極的に参加した。販売員を担う利用者の方も安定し、秋にはきたのば企画の合同販売会を実施した。更に、紙ひこうきと合同で地域ネットワーク会議を行い、活動報告を通じて近隣事業所や区担当課など顔の見える関係づくりを意識した。③きたのばの認知度アップについは、多摩区社協や多摩区地域ケア推進課などのつながりから町会の方と接点を持つことができた。

全体としては、利用者の方が安定して作業やプログラム活動に参加できるよう、グループワークや個別面談を行った。製品販売においては、在庫管理（棚卸）や物価高騰を考慮した価格見直しなど、職員会議で課題を整理した。

＜活動内容＞

自主製品作り、軽作業、法人内事務委託、カラオケ、陶芸、ヨガ、フラダンス、紙ひこうき合同夏祭り、ウォーキング、ディスコでダンス、新年会、SKY 業務報告会、地活合同バスレク、健康プログラム、消防訓練、避難訓練、体験談語り合い

＜地域との連携および販売協力等＞

紙ひこうき合同地域ネットワーク会議、イカス！スカイ展、パサージュ・たま、多摩ふれあいまつり、KAWASAKI 産 SUN フェスティバル、自主販売会、ハロウィンだよ登栄会、北リハフェスタ、ふれあいバザール、手作りマーケット、SORA 市、カフェ POP、多摩区 SDC、があでん・ららら、なごみ保育園、登戸台和町会桜まつり、のぼりとミーティング、多摩区連携ネットワーク会議

(2) 地域活動支援センター　さくらスタジオ

場所	麻生区片平 2-29-1-B1
対象者	利用者 38 名
新規利用者	6 名
退所者	7 名（在宅 1 名、他資源への移行 6 名）
利用実績	実数 1,065 名/年 平均利用者数 4.5 名/日
開所日数	241 日
職員数	常勤専任 1 名、常勤兼務 1 名、非常勤 1 名

事業報告

令和 5 年度の重点目標は 3 点。1 点目の社会参加の第一歩と役割についてはインスタグラムや HP 掲載「さくら report s ！」を活用して、日々の活動や利用者の様子を発信することにより広く事業所の周知に努めた。

2 点目の地域の向けた活動については COLORS かわさき展への出展や日々の活動をさくらスタジオ内で紹介する「咲 LIVE」開催、があでん・ららクリスマスマーケット出品などを行った。小規模ながらも外部に事業所の活動を知っていただく貴重な機会となった。

3 点目の指定特定相談支援事業所の開設については、令和 6 年度の相談支援事業所と合同の移転計画に伴い、先送りとした。

年度当初に利用人数の減少があり、開所時間の延長やプログラムの工夫、外部への宣伝活動などを行った。それにより新規利用者が増え、日々の活動の活性化にもつながった。

＜活動内容＞

昼食の日、ゲーム大会、絵画、映画鑑賞、YouTube 鑑賞会、ストレッチ、
脳トレ、季節のパーティー、大掃除、咲 CLASS、咲 LIVE、防災訓練

＜地域との連携＞

・麻生区社会福祉協議会在宅福祉サービス委員会・地域ネットワーク会議

(3) 地域活動支援センター　紙ひこうき

場所	多摩区登戸 2341-1
対象者	利用者 63 名
新規利用者	5 名
退所者	5 名（他資源移行 3 名、本人意向 2 名）
利用実績	実数 2,694 名/年 平均利用者数 11.3 名/日
開所日数	242 日
職員数	常勤兼務 3 名、非常勤 1 名
その他	実習生受け入れ 2 名

事業報告

令和5年度は15名の方が見学に来られ、5名が登録に至った。利用の目的としては、話し相手が欲しい、プログラムに参加したいなどである。日中活動では障害理解を目的とした地域交流を目標に掲げ、パサージュ・たまに参加し、プログラム活動で製作したミュージッククリップ等の作品を地域の方に見て頂く機会を設けた。また、多摩ふれあいまつりに参加してぬりえ体験を行った。子供から大人まで約 60 名の方が楽しんでくださり、市民の方と交流できる機会として積極的にコミュニケーションを図った。相談支援においては、しばらく来所がない方へ電話連絡をしたり、個別支援計画ではご本人の状況を確認したりしながら、継続的な利用に繋がるよう意識して取り組んだ。

さらに法人内事業所を利用する方々の作品展として、イカス！スカイ展を開催した。開催期間中は法人事業所の利用者と職員とで受付を担当するなど、多くの方が主体的に携わった。イカス！スカイ展は、次年度は紙ひこうき主体の事業として継続していく予定である。また、中野島小学校での寺子屋事業の講師として招かれ、ぬりえ体験を 2 回おこなった。延べ参加人数はメンバー9 名、小学生約 40 名であり、次の活動につながる基盤づくりができた。

コロナ禍で中止していた地域ネットワーク会議は、きたのばと合同で行うことができた。区保護課や地域ケア推進課、家族会、近隣事業所を招き、利用者とともに活動報告と情報交換を行い、今後共に活動できる機会を模索する良いきっかけとなった。普及啓発に係る活動としては、泰山木の会との交流や精神保健福祉士の実習生受入れほか、区主催の家族教室へ職員と利用者 2 名を派遣し、病気の体験や現在の生活などを語る活動に協力した。

＜活動内容＞

ミーティング、目安箱、ストレッチ体操、健康 5 分体操、ヨガ、手芸、弁当、中・大掃除、音楽紹介の会、音楽発表会、クリスマス会、書初め、新年会、きたのば合同夏祭り、外出レク、スイーツ CLUB、援護会主催ボウリング大会参加

＜地域との連携＞

地域ネットワーク会議、パサージュ・たま、多摩ふれあいまつりに参加、泰山木の会との交流（音楽発表会招待、利用者による体験発表）、イカス！SKY 展開催、多摩区家族教室体験発表、PSW 実習生受け入れ、寺子屋事業、ピア活動地域交流会実行委員会

(4) 北部地域生活支援センター　ゆりあす

場所	麻生区百合丘 2-8-2 北部リハビリテーションセンター2 階
対象者	利用者 233 名
新規利用者	17 名
退所者	4 名（他資源移行 2 名、死去 2 名）
利用実績	実数　4,289 名/年 平均利用者数　14.6 名/日 個別相談件数　2102 件
開所日数	293 日
職員数	常勤専任 6 名、非常勤 5 名
その他	計画作成　　39 名 地域定着支援　　1 名 実習生受入　　16 名・90 日間

事業報告

こもりがちになっている方が人や場と繋がり、声を発信できるよう取り組んできた。麻生区精神保健カンファレンスや家族会に定期的に参加し、地域の実情への理解を深め、精神障害に特化した身近な相談機関として繋がりを築けるよう努めてきた。また、地域生活支援センターの利用が途絶えがちな方へは当事者の力を活かし、ピアスタッフによる訪問や居宅介護事業所へのピアガイドヘルパーの派遣を延べ 108 件実施した。これらの活動は、令和 6 年度に移動支援事業として事業化すべく準備をすすめている。3 月に開催したピア活動地域交流会では、「支え合い～感謝の気持ちをわかちあおう～」をテーマに家族、当事者それぞれの立場から体験や思いを語るシンポジウムと、参加者を交えたグループワークを実施し、77 名の当事者や関係機関の方と意見交換した。

＜活動内容＞

・全体ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、ﾋﾟｱﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、ｽﾏｲﾙ(当事者活動)、ｻｲｺﾄﾞﾗﾏ、WRAP、当事者研究、体験発表、防災ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、就労ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、ﾗﾝﾁほか各種ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・ｸﾗﾌﾞ活動の実施

・ﾋﾟｱ活動地域交流会、ふれあう訪問ﾂｱｰ、退院応援ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、ﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄ活動を学ぶ見学研修会、ﾋﾟｱ派遣事業ほかﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾀｰ養成・支援事業の実施

＜地域との連携＞

川崎市障害支援区分認定審査会委員、川崎市障害者施設事業協会施設長会、川崎市障害者施設事業協会精神障害者支援施設分科会、川崎市地域活動支援ｾﾝﾀｰＡ型情報交換会、地域活動支援ｾﾝﾀｰＡ型の機能に関する懇談会委員、麻生区精神保健福祉ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ、川崎市北部相談支援事業所連絡会、川崎市精神障害者地域移行・地域定着支援協議会、ﾋﾟｱ活動地域交流会実行委員会、ﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄ連絡会、麻生区社会福祉協議会ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動振興ｾﾝﾀｰ運営委員会、北部ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ運営調整会議、北部ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ防犯・防災対策委員会、北ﾘﾊﾌｪｽﾀ実行委員会

５，苦情報告

苦情件数合計										
申出人			内容				結果			
本人	家族	他	職員の接遇	説明･情報提供	被害･損害	その他	解決	検討（継続）	未解決	30
23	5	2	17	3	5	5	27	3	0	

苦情の多くは本人からの申し出によるものとなる。内容の内訳としては「職員の接遇」に関するものが最も多く、作業指示の声かけに対する苦情や、事業所の職員体制充実の要望などが見られた。「被害・損害」の内容としては、グループホームの騒音に対する近隣住民からの苦情などがあった。結果として 27 件は話し合いにより解決に至ったが、3 件は引き続きの検討となっている。事業所により苦情の取り上げ方に差異があり報告件数に偏りが見られる為、今後は共通の認識を持って共有したい。

６，事故報告

事故件数 10 件（利用者 8 件、職員 2 件）			
重大事故の内容	死亡	0	
	骨折 ※全治 1 ヶ月以上の重傷を含む （うち救急搬送）	3 (1)	・事業所内での転倒による骨折 ・交通事故による骨折 （利用者 3 件）
	誤嚥	0	
	食中毒	0	
	集団感染	0	
	火災	1	・グループホーム居室での小火 （利用者 1 件）
	所在不明	0	
	犯罪行為等	0	
その他	打撲 ※全治 1 ヶ月未満の軽傷を含む	5	・事業所内での転倒 ・作業中の火傷、虫刺 （利用者 4 件、職員 1 件）
	その他	1	・非常勤職員の給与未払い （職員 1 件）

令和 5 年度は 10 件の事故報告があった。大半は事業所での活動における不慮の事故である。事故発生時には速やかに必要な措置を講じると共に、重大事故の場合は所管課へ連絡を行っている。また、再発防止に向けた対応・対策や取り組みについて各所内で協議の上で事故報告書を作成し、所管課へ提出している。